

岩手教区報

第381号
 立教187年9月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



年祭活動後半に向けて 二戸支部長 羽澤道広



教祖140年祭へ向かう三年千日の年祭活動が進められる中、今年4月の本部月次祭「登殿参列」に参列し、結界内がかぐらづとめ、てをどりを拝させて頂きました。当日は入場開始前に集合場所に並んだ甲斐もあり、着座は北礼拝場最前列から2列目となり、かぐら面をはっきりと拝見することが叶い、ありがたいことでした。午前8時30分過ぎに着座することができましたので、献饌やかぐらづとめの準備なども確認することができました。「そうやってお供えているのか」「あの白い生地は何だろう」などと、祭典終了後に同席した会長さんと少し興奮気味に語り合いました。かぐらづとめが始まると、まず、かぐら面の大きさに圧倒されました。また、つとめ人衆にご高齢の本部婦人の先生がおられ、御付きの方の手を借りながらかんどい付近へと上り下りする姿に、なんとも言えない感情がこみ上げてきました。朝早くからの参拝でしたが、あつという間に時間は過ぎ去った、というのが率直な感想でした。

さて、5月の本部月次祭の祭文において、「三年千日を仕切つての歩みも早半ばとなり」との奏上を聞か

せていただき、もう半分が過ぎてしまったのかとハツと我に返る思いがしました。そして、みちのとも7月号の表統領先生のインタビュー記事では、「三年千日の半ばにあたって、いま一度、目標を見つめ直し」と述べられていたのを拝見し、まず自分の通り方を振り返りました。なかなか十分にはつとめ切れておれず申し訳ない気持ちもありますが、大教会から打ち出された成人目標に込められるように教会で目標を定め、それを上回るように頑張らせて頂くとうと、日々励んでいくところでもあります。

会長として初めての年祭活動を通らせて頂いている中ですが、今さらのように気づいたことがあります。それは、普段はなかなか実行することが出来ていないことも、三年千日だから頑張ろう、また、頑張れと背中を押して下さっている期間なのだという、至極当然に思われてしまうことかもしれません、私は再確認するようになりました。

年祭活動の前半をふり振り返り、反省とともに改めて年祭への意識を高め、素直にひながたの道を辿り、丹精を重ねて、成人の歩みを進めさせて頂こうと思う次第です。



「よふきゆさん」

私たちお道の信仰者の目標は陽気ぐらし世界の建設であることは言うまでもありません。陽気ぐらしという言葉は「おふでさき」には4回出てきますが、「おふでさき」には「よふきゆさん」という言葉が代わりに使われています。そこで、この信仰随想の題に「遊山」と名付けました。

月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから

(十四 25)

言葉として、「くらし」には日々の営み、「ゆさん」には休養や楽しみというイメージがあります。陽気ぐらしとは、はて、どのような世界なのでしょう？ 気温40度越えの報道や、災害級の激しい雨に驚かされる今日この頃、ある先生が教祖に「陽気ぐらし世界の様子」をお伺い

になった話をふと思い出しました。教祖、おおせには「そのときには昼は晴天で、そよそよ風 雨は夜に降って、月六齋。夫婦のなかには 男の子一人、女の子一人ずつ授ける。あとは願いどおり働きは、昼まで働いて 昼から先は、よふき遊びや」と高野友治先生の著書「教祖おおせには」に「高井直吉先生のお話のなかから」として、涼やかな風が通る晴天の日中、雨は月6回夜間に降るといふ様子が描かれています。植物は水気をたっぷり与えられて、太陽の下でグングン育つ。なんと爽やかな情景なのでしょう。陽気ぐらしという言葉には、ともすれば、人間だけが幸せに暮らすというイメージがあります。しかし、地球が健康でなければ、人間を含めあらゆる生物が健康に育つことはできません。頻発する異常気象の原因である地球の温暖化。それをもたらした化石燃料の使いすぎにより、生命のゆりかごとしての地球の能力は限界に達し悲鳴を上げているようです。人間の身長は地球の直径の800万分の1の大きさにしかすぎませんが、人間の営みは地球には少々重荷になっているのかもしれない。

このおはなしには、生業についての記述もあります。午前だけ働いて生活が成り立つ。午後は自由で、趣味や創作活動

の他に、おたすけやひのきしんなど、さまざまな社会活動を行うことができる。災害、少子高齢化、貧困、戦争など、さまざまな問題に囲まれている私たちが目指したい世界をお示しく下さっているおはなしではないでしょうか。

計 報

澤口 一さん〔74歳〕
 三陸支部・三陸分教会長
 令和6年8月8日出直された。

行事予定 【9月分】

- 1日 学生層育成者講習会(10時)
- " 役員会議(11時)
- 7日 女子青年例会(10時)
- 14日 学生担当委員会例会
- " まなびば事前研修会(14時~15日)
- " 青年会例会(19時)
- 16日 道の学生ひのきしんDAY(10時)
- " わかぎの集い(10時)
- 21日 道の教職員の集い役員会(10時)
- 28日 少年会例会(18時)
- " 全教一斉にをいがけデー(30日)

全教会布教推進月間及び

全教一斉にをいがけデー

“あの人に”

教区布教部長 権谷正一

例年9月は「にをいがけ強調の月」として活動を進めてきましたが、今年と来年は全教会が拠点となつて年祭活動に相応しい活動を展開しようとして、「全教会布教推進月間」としてつとめます。そして28日から30日は従来通り「全教一斉にをいがけデー」として、支部を中心に神名流しや路傍講演、戸別訪問などの布教活動を計画して頂いています。

今回は岩手教区オリジナルのリーフレットを作成しました。親神様、教祖の親心を届けて頂きたい、教えに耳を傾けて頂きたいという願いがたくさん詰まっているリーフレットです。近くに住む人には勿論、遠方の方にも届けることができます。また、戸別訪問できない方も郵送や誰かに届けて貰うこともできます。「あの人に届けたい」と、心に浮かぶ方にぜひ届けてください。

さあ、それぞれにできるにをいがけやひのきしんの姿を通して、地域や親戚知人の方々のみならず、世界の人に教えを伝えて、教祖にお喜び頂きましょう。

少年会

「少年ひのきしん隊

本部練成会」報告



少年会岩手教区団は、7月29日から8月1日にかけて、「少年ひのきしん隊本部練成会」に参加し、隊員14人、カウンセラー6人が入隊した。

27日午後4時、教務支庁をマイクロバスで出発し、途中岩手沢分教会、磐井分教会を経由しておちばへ向かい、翌28日、大阪市のユニバーサルスタジアムジャパンにて一日楽しみ、午後5時ごろ、城山詰所に到着した。29日は朝のおつとめ行事に参加した後、東大寺、奈良公園を散策し、午後2時、宿舎となるおやさとやかた東左第5棟に移動して入隊となった。期間中隊員たちは、お茶接待ひのきしんの元気な声掛けに汗を流し、各行事にも参加した。



道の教職員の集い

「第45回夏の勉強会」開催さる



岩手教区道の教職員の集いで、8月11日(日)、12日(月)の両日、教務支庁を会場に「夏の勉強会」を開催し、小中学生5人、スタッフ14人が参加した。夏休みの宿題をはじめ、得意科目や不得意とする科目を学生スタッフにサポートし、子供たちは真剣に取り組んでいた。今回の勉強会では、少ひ隊参加者はじめ、少ひ隊OBの高校生、大学生が、参加者の勉強を見るかたわら、自身の勉強もしっかり行い、来年以降の少ひ隊参加につながる仲間作りにも尽力した。さらにおてふり練習、食事のひのきしんなどにも率先して取り組んでくれた。なお、台風5号の接近に伴い、当初の予定を変更し、12日朝閉会となった。



学生担当委員会

「サマーパラダイス」開催さる

教区学生担当委員会・教区学生会では、8月4日(日)午前10時から教務支庁において「サマーパラダイス」と称した交流行事を開催し、学生11人、担当者5人が参加した。

開会式では、「普段県外の学校に通っている学生も参加し、より多くの学生の輪が広がってほしい」と崎山陽平・教区学生会委員長が挨拶した。その後、自己紹介など行い打ち解けてきたところで、鈴木真浩・教区学生担当委員長が「かしまのかりもの」の教話を行った。続いてかしまのかりものについて身近に感じることや講話の中から思ったことを2グループに分かれてねりあいを行った。

午後は、教務支庁内の清掃ひのきしんを行い、最後にイントロクイズで交流を深め、午後3時解散となった。



わかぎの集い

日時 9月16日(月・祝) 午前10時
会場 教務支庁
内容 祭儀式練習、イニシアティブゲーム

(イニシアティブゲームとは、人間関係に必要な信頼や協調性を育てるというゲームです)

「まなびば事前研修会」【9月14日】

教区学生担当委員会では、9月14日午後2時から15日にかけて、「まなびば事前研修会」を、教務支庁において開催します。事前研修では、「学生層の育成を『与えられた用事』としてこなしていくのではなく、にをいがけ・おたすけととらえて行動していくことが、私たち育成者にとって最も大切な姿勢」との指針のもと、「まなびば」で行うプログラムについて研修を行います。担当者をはじめ多くの方に参加して頂きたいと思えます。



道の学生ひのきしんDAY

日時 9月16日(月・祝) 10時
会場 教務支庁周辺及び盛岡市大通り
内容 ごみ拾いひのきしん



めんこいマルシェ

日時 10月6日(日) 10時~14時
会場 教務支庁 ※参加費無料
対象 女子青年(中学生可)
内容 おつとめ、お楽しみ行事、ケーキ作り、昼食

